



大分国際車いすマラソン
OITA International Wheelchair Marathon

新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

《第41回大分国際車いすマラソン》

2022年10月18日版

大分県
第41回大分国際車いすマラソン実行委員会
新型コロナウイルス感染症対策委員会

目 次

はじめに	1
基本方針	2
1 目的	3
2 大会を実施する基準等	4
(1) 大会開催の目安となる基準	
(2) 大会開催の可否を判断するプロセス	
3 大会への参加を認める基準	5
(1) 選手及びスタッフ等の大会への参加等を認める基準	
(2) 海外選手及び関係者の大会への参加等を認める基準	
<u>(新たな水際対策(27)における外国人の新規入国申請手続き概要)</u>	6
※1 有効な検査方法	
※2 検査証明書(参考様式/日本語・英語)	7
※3 海外から日本への入国に際し有効と認めるワクチン接種証明書について(水際対策(28)に基づく措置/抜粋)	8
4 感染者(疑いを含む)が発生した場合等	11
(1) 感染者(疑いを含む)が発生した場合	
(2) 医療体制について	
(3) 感染者が発生した場合の連絡系統図及び情報発信の方法	12
5 大会にかかわる方が留意すべきこと	14
(1) 共通事項	
(2) 選手及びコーチ等関係者	
(3) 競技役員・スタッフ	15
(4) 選手及びスタッフの体調管理	
参考 1:体調管理専用アプリの概要(選手用／Kintone)	12
参考 2:体調管理チェックシート(今大会様式)	13
参考 3:COCOA-新型コロナウイルス接触確認アプリについて	14
参考 4:検温等チェック方法	15
新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル	20
1 感染拡大防止に向けた大会運営の方法	21
(1) 観戦及び応援の取扱い	
(2) 関係者全員の健康状態の管理	23
(3) 場面ごとの感染予防策	24
(4) メディアの感染予防策	31
2 感染者等が発生した場合の対応	32
(1) 基本的な対応方針	
(2) 感染疑い者が発生した場合の行動(各場面)	34
(3) 感染者を確認した場合の対応	35

はじめに

第41回大分国際車いすマラソン(以下、「今大会」という。)について、参加者、大会関係者及び県民全ての人が安心して大会を迎えるよう、本ガイドラインを理解して運用をお願いします。

本ガイドラインは、第41回大分国際車いすマラソンを開催するにあたり、感染症専門医や競技運営団体等関係者で構成する新型コロナウイルス感染症対策委員会での意見を踏まえ、昨今の状況を踏まえた新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、主催者が講じる対策の概要を示すとともに、参加選手、競技運営関係者、ボランティアスタッフ、地域住民等大会に関係する全ての方々と共に理解を促進させ、安心安全な運営を行うことを目的に作成しました。

新型コロナウイルスの感染状況については依然、収束の見通しがたっていないところですが、万全な感染防止対策となるよう尽力し、安全安心の大会運営を目指します。

※ 今後の感染状況に応じて、本ガイドラインについて随時更新する可能性があります。
予めご留意ください。

基本方針

1 目的

今大会に関わる選手や競技役員、ボランティアスタッフ等全ての方の健康及び県民の安全安心を第一に本ガイドラインの基本方針を推進する。

今大会を実施する際の、新型コロナウイルスの感染拡大リスクを踏まえた大会運営のあり方や、感染拡大を防止するために大会関係者が遵守すべき事項について、基本的な方向を定めるため、本基本方針を作成する。

なお、運営に際し、詳細な防疫対策等については、必要に応じ別途作成する各種マニュアルにおいて作成する。

2 大会を実施する基準等

(1) 大会開催の目安となる基準

新型コロナウイルス感染防止に関する事項について、下記①から③までの全ての基準を満たす場合にレースを開催する。

- ① 本県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されていない又はまん延防止等重点措置区域に指定されていないこと
- ② 大分県知事が飲食店等に対する休業要請や時短要請を行っていないこと
- ③ 政府が定める感染状況に関する各種基準等、その他の要素を総合的に勘案し、大会の開催が可能であると判断できること

※ なお、新型コロナウイルス感染症以外の災害等を理由とする大会中止基準及び緊急時の対応等は、「第41回大分国際車いすマラソン危機対応マニュアル」に基づき対応する。

(2) 大会開催の可否を判断するプロセス

新型コロナウイルス感染症対策委員会は、県内における感染状況等を総合的に勘案し、上記の基準を踏まえた上で、大会の開催可否について、大会事務局に対し技術的助言を行う。

大会開催までに、上記(1)の基準を満たさなくなる、もしくはその可能性が高いと認められる場合には、委員長の判断において臨時の委員会を招集し、大会の開催可否について、再度事務局に対して技術的助言を行う。

3 大会への参加を認める基準

(1) 選手及びスタッフ等の大会への参加を認める基準

下記①から⑤までの全ての基準を満たす場合に大会への参加を認めるものとする。

- ① 体調管理チェックシート(選手は原則専用アプリ)を使用し大会前7日間の体調確認を行うこと
- ② 体調管理チェックシート等において、直近7日間の間に感染疑い症状が見られないこと
- ③ 大会当日(スタッフ等においては業務従事当日)時点で、新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者として、行政から自宅待機を要請されていないこと
- ④ 大会当日(スタッフ等においては業務従事当日)の受付において実施する検温において、37.5度以上または平素の体温よりも高いと認められないと
- ⑤ 選手については、大会前日に実施する新型コロナウイルス検査において「陽性」の判定を受けないこと

(2) 海外選手及び関係者の大会への参加手続き

海外からの選手等は、国の定める「水際対策強化に係る新たな措置」に従い受入を実施する。

《最新の対応／水際強化対策に係る新たな措置(34)(令和4年9月26日)》

- ・ 「水際対策強化に係る新たな措置(31)」に基づき、オミクロン株(B.1.1.529 系統の変異株)が支配的となっている国・地域からの全ての帰国者・入国者について、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種証明書を保持している場合は、出国前72時間以内の検査証明の提出を求めないこととする。
- ・ なお、当該証明書に記載するワクチンは、世界保健機関(WHO)の新型コロナワクチン緊急使用リストに記載されたいずれかのワクチンを3回(ジェコビデン(JCOVDEN)筋注／ヤンセン(Janssen)の場合は2回接種をもって3回分相当とみなす。)接種したことが分かること。

※1 有効な検査方法

検査方法は以下のいずれかに限り有効

核酸増幅検査(NAAT: Nucleic Acid Amplification Test)

PCR 法(Polymerase Chain Reaction)

LAMP 法(Loop-mediated Isothermal Amplification)

TMA 法(Transcription Mediated Amplification)

TRC 法(Transcription Reverse-transcription Concerted reaction)

Smart Amp 法(Smart Amplification process)

NEAR 法(Nicking Enzyme Amplification Reaction)

次世代シーケンス法(Next Generation Sequence)

抗原定量検査(Quantitative Antigen Test(CLEIA、ECLIA))※

※抗原定性検査ではない

※2 検査証明書(参考様式／日本語・英語)



Quarantine Station,
Ministry of Health, Labour and Welfare, Japanese Government

COVID-19 に関する検査証明 Certificate of Testing for COVID-19

交付年月日
Date of issue _____

氏名
Name _____ 生年月日
Date of Birth _____

上記の者の COVID-19 に関する検査を行った結果、その結果は下記のとおりである。
よって、この証明を交付する。

This is to certify the following results which have been confirmed by testing
for COVID-19 conducted with the sample taken from the above-mentioned person.

採取検体 Sample (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	検査法 Testing Method for COVID-19 (下記いずれかをチェック/Check one of the boxes below)	結果 Result	検体採取日時 Specimen Collection Date and Time	備考 Remarks
<input type="checkbox"/> 鼻咽頭ぬぐい液 Nasopharyngeal Swab	<input type="checkbox"/> 核酸増幅検査 (NAAT: PCR, LAMP, TMA, TRC, Smart Amp, NEAR, Next generation sequence)	<input type="checkbox"/> 陰性 Negative	Date (yyyy /mm /dd) / / Time AM/PM : :	
<input type="checkbox"/> 鼻腔ぬぐい液 ^{※2} Nasal Swab	<input type="checkbox"/> 抗原定量検査 ^{※1} Quantitative antigen test (CLEIA/ECLIA)	<input type="checkbox"/> 陽性 Positive →入国不可 No entry into Japan		
<input type="checkbox"/> 唾液 Saliva				
<input type="checkbox"/> 鼻咽頭ぬぐい液と咽 頭ぬぐい液の混合 Nasopharyngeal and Oropharyngeal Swabs				

※1 抗原定性検査ではない。

Not a qualitative antigen test.

※2 鼻腔ぬぐい液検体は核酸増幅検査のみ有効

Nasal Swab is valid when the test method is Nucleic acid amplification test (NAAT).

医療機関名 Name of Medical institution _____

※3 WHO 緊急使用リスト(EUL)に掲載されている COVID-19

に対するワクチン(WHO サイトより)

COVID-19 に対して WHO が使用を許可したワクチンはいくつかあり、WHO 緊急使用リスト(EUL)に掲載されています。2020 年 12 月上旬に第 1 回目の集団接種プログラムが開始され、接種回数が日々 COVID-19 ダッシュボードで更新されるようになりました。

EUL の作成プロセスでは、安全性と有効性に関するすべての利用可能なデータと、中低所得国への適合性に基づいて、製品の使用を推奨できるかどうかを判断します。ワクチンは、臨床試験のデータ、製造・品質管理プロセスを用いて、品質、安全性、有効性の許容基準を満たすかどうか評価されます。評価過程では、緊急事態がもたらす脅威と、製品の使用によってもたらされる利益がどの程度か、潜在的なリスクと比較しながら検討します。

各国は自国の規制や法律に従って、あらゆる医療健康製品に対して緊急使用認可を発行する自治権を持っています。国内の緊急時使用許可は、各国の判断で発行されるものであり、WHO の承認が必要なものではありません。

2022 年 1 月 12 日現在、以下のワクチンが EUL に掲載されています。

- ファイザー／バイオテック・コミナティ・ワクチン, 2020 年 12 月 31 日
- SII/COVISHIELD とアストラゼネカ/AZD1222 ワクチン, 2021 年 2 月 16 日
- ジョンソン・エンド・ジョンソン社が開発したワクチン Janssen/Ad26.COV 2.S, 2021 年 3 月 12 日。
- モデルナ社製 COVID-19 ワクチン(mRNA1273), 2021 年 4 月 30 日
- シノファーム社製 COVID-19 ワクチン, 2021 年 5 月 7 日
- Sinovac-CoronaVac ワクチン, 2021 年 6 月 1 日
- バーラトバイオテック社製 BBV152 コバキシンワクチン, 2021 年 11 月 3 日
- コボバックス(NVX-CoV2373)ワクチン, 2021 年 12 月 17 日
- ヌバクソビド(NVX-CoV2373)ワクチン, 2021 年 12 月 20 日

<防疫対策>

最新の水際対策強化に係る新たな措置に基づく対応を実施する。

出国

- ・ 出国日及び入国日に関わらず、事務局の定める健康管理アプリ(ONE TAP SPORTS)により、大会前7日間(11月13日(日)から19日(土))の健康管理及び報告を実施。新型コロナウイルス感染症の症状が認められる場合は、渡航中止。
- ・ 現地出国前72時間以内に新型コロナウイルス感染症に関する有効な検査を受検し「陰性」の検査証明書を取得。(P5に掲げるワクチン接種証明書を有する際は不要)

入国

- ・ 検疫所にて医療機関等による検査証明書を提出。
- ・ 入国者はスマホアプリ(MySOS)をインストール。
※ スマホを所持していない海外選手等については、スマホを貸与。

入国後から レース当日 まで

(健康管理)

- ・ 専用アプリ(ONE TAP SPORTS)を使用し滞在中の健康管理を記録する。
- ・ 大会前日(11月19日(土))に選手受付会場にてPCR検査を実施する。

(行動管理)

- ・ 参加者は、大会主催者が感染症に関する専門家等の意見を踏まえ作成したガイドライン等を遵守したうえで大会に参加することとし、対象者はこれに従う。

4 感染者(疑いを含む)が発生した場合等

(1)感染者(疑いを含む)が発生した場合

- ・ レース前日の受付場所や当日の競技場を含む大会実施工アリにおいて、新型コロナウイルスの感染が疑われる大会関係者が発生した場合、当該者に対し各エリアに設置する隔離用設備(テント等)内において一時的に隔離する。
- ・ その後、検査の必要性が認められる場合は、保健所へ連絡のうえ、後方支援病院(又はかかりつけ医等)において検査を行う。
- ・ 大会終了後7日間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した者は、大会事務局に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告するよう義務づける。

(2)医療体制について

大会事務局は、感染者(疑いを含む)が発生した場合に、必要な検査が滞りなく実施できるよう、また入院が必要な場合には速やかに受入が行われるよう、発生時の手順等について関係機関と十分な事前協議及び確認を行う。

ア 新型コロナウイルス感染症対策委員会

競技運営団体	一般財団法人大分陸上競技協会 専務理事 大分県障害者スポーツ指導者協議会 会長
医療関係者	一般社団法人大分県医師会 常任理事 大分大学医学部付属病院 副病院長 社会医療法人恵愛会大分中村病院リハビリテーション科 科長
選手関係者	大分身体障害者陸上競技協会 会長 別府重度障害者センター 運動療法士長
行政・事務局	大分県福祉保健部 理事(医師)

イ メディカル体制

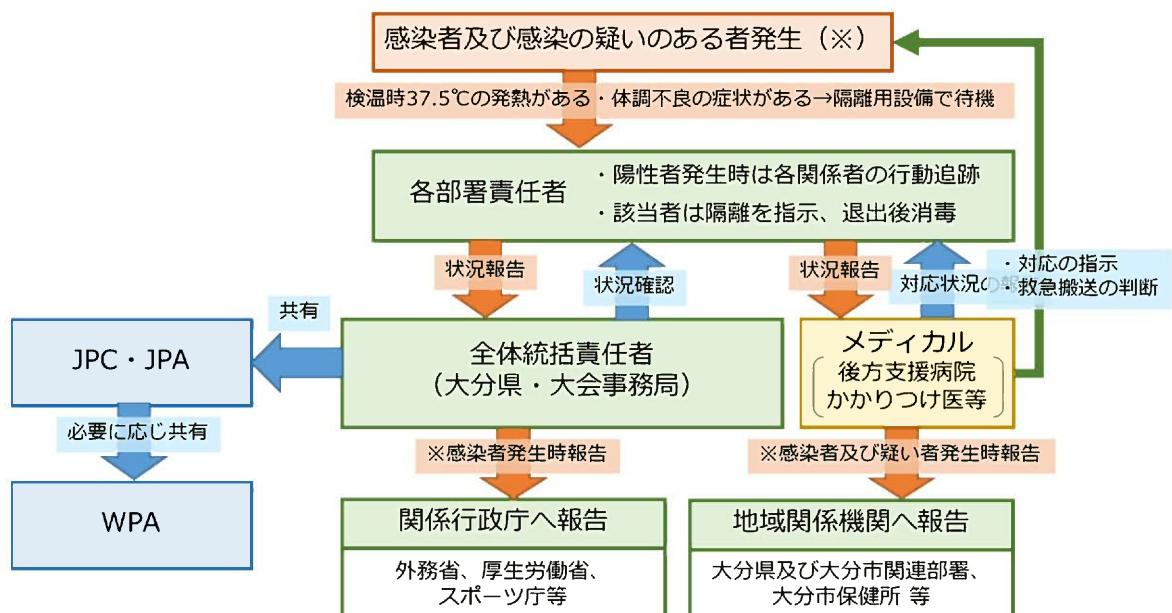
後方支援病院	社会医療法人恵愛会 大分中村病院 大分市医師会立 アルメイダ病院
レース前日 (選手受付)	選手に対する新型コロナウイルス検査の実施 疑いのある選手等を隔離する隔離室の設置
当 日	スタート スタート地点救護対応 スタート地点隔離室対応
	コース レース中に発生した負傷者及び体調不良者の収容車
	競技場 フィニッシュ地点における負傷者及び体調不良者の対応・隔離 疑いのある大会関係者等を隔離する隔離室の設置

※ 隔離室及び医務車には医療関係者(医師、看護師等)を配置する。

(3) 感染者が発生した場合の連絡系統図及び情報発信の方法

感染者(疑いを含む)が発生した場合は次に定める連絡系統図で速やかに対応するとともに、陽性者が発生した場合は、大会サイトやプレス発表等による周知を行う。

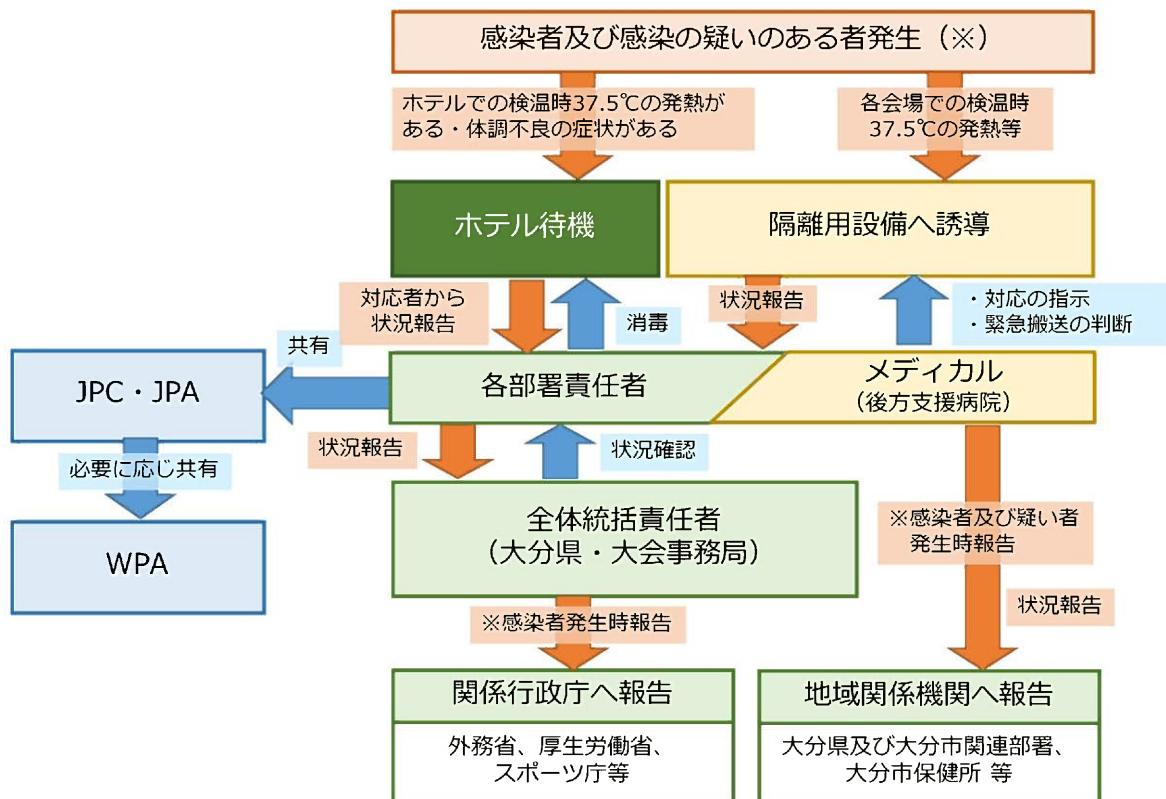
(来県後からレース前日までの連絡系統図)



(※) 陽性者が発生した場合、大会事務局は上図に加え、

- ① 検査実施機関に検査結果の詳細を確認する
- ② 接触者に接触の状況を確認する

(レース当日の連絡系統図)



(※) 陽性者が発生した場合、大会事務局は上図に加え、

- ① 検査実施機関に検査結果の詳細を確認する
- ② 接触者に接触の状況を確認する

5 大会に関わる方々の留意事項

(1) 共通事項

- ・ 大会に関わる全ての者(選手、スタッフ、メディア等。ただし観客を除く)は、本ガイドラインの内容を理解し、遵守する。
- ・ 大会前7日間の検温結果及び各チェック項目を含む体調管理を実施する。また、大会終了後7日間においても同様に検温と体調チェックを行い、記録する。
なお、記録等の実施について、選手は専用アプリ(ONE TAP SPORTS)を原則使用するものとし、その他関係者については、体調管理チェックシート(紙)による記録とする。
- ・ 「飛沫対策」として屋外であっても、全ての選手、関係者は可能な限りマスクを着用する。(レース中の選手については除く。)
- ・ 「接触対策」として手洗いの励行、各所出入り口などではアルコール手指消毒を行う。
- ・ 必要な場合を除き、緊密な距離での会話を避け、大声を出さないように注意し、他人と適切な距離を確保する。(フィジカルディスタンスとして2メートルを目安とする)
- ・ 「飛沫対策」として屋内(テント含む)では常に換気に気を配り、風通しのよい環境を心がける。(密閉した空間は避ける)
- ・ 選手との接触を極力避けるように心がけ、握手やハグ及びハイタッチなどを禁止とする。
- ・ 大会用務に使用する道具等(文房具等を含む)は原則使い回さないこととし、使用する都度消毒を実施する。
- ・ 大会開催より7日前を目処に、感染拡大地域への不要不急の移動や複数名での会食等を控えるなど、可能な限り新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減らすよう過ごすこと。

(2) 選手及びコーチ等関係者

- ・ 車いす(生活用・競技用)や手荷物等、他社が触れる可能性がある持ち物は、こまめに消毒する。
- ・ 衣服等は脱ぎ捨てないこと。(回収した衣服等は、原則廃棄する。)
- ・ 競技中、つばや痰を吐く等の行為は極力行わないこと。
- ・ 他の選手との握手やハイタッチ、ハグ等の接触を行わないこと。
- ・ コーチや介助者等関係者は密を避けることも目的に、ウォームアップエリアへの立入りは最小限とすること。

(3)競技役員・スタッフ

- ・「ロードレース開催についてのガイダンス」(公益財団法人日本陸上競技連盟)に基づく、個人防護服(マスクほか必要に応じてフェイスシールド、使い捨てゴム手袋、ゴーグルや眼鏡(サングラス)等)を着用すること。(使い捨てゴム手袋は使用するごとに、交換又は消毒用アルコールを用いて消毒を行うこと。)
- ・用器具の共用はできるだけ避けること。やむを得ず使用した場合は用器具や手指の消毒を行うこと。

(4)選手及びスタッフの体調管理

- ・選手の体調管理については、原則専用アプリ(ONE TAP SPORTS)を使用することとし、その他介助者やスタッフについては体調管理チェックシートに記入する。

参考1:体調管理専用アプリ(選手用／ONE TAP SPORTS)

ONE TAP SPORTS とは

「ONE TAP SPORTS」は、スポーツ選手のコンディショニングやトレーニングに必要な情報を一括して記録・管理できるシステム。今大会では、コロナ対策の観点から、海外選手及び関係者、国内選手については当該システムを利用した健康管理・行動記録を行う。

体調管理等の運用方法

お手持ちのスマートフォン、または PC からアクセス可能です。

健康状態を忘れず確実に入力してください。なお、スマートフォンあるいは PC をお持ちでない(使用できない)方は事務局までその旨、事前にお知らせください。

【入力方法】

初回ログイン方法



体温等のデータの登録



コメントの確認方法



パスワード変更方法



ホーム画面に追加方法



※その他の大会関係者は、健康状態・行動記録を紙で管理します。

参考2:体調管理チェックシート(今大会様式)

大会前チェックシート



新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート(大会前/提出用)

本チェックシートは、大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、出場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、本人の同意を得ずに第三者に提供しません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に、必要な範囲で保健所等に提供することがあります。

- ・大会7日前から記入し、大会当日の受付で提出してください。
選手及び介助者の方は、前日受付にて確認後返却しますので、翌日(11月20日)の体調を追記し、当日の受付でも提出してください。
- ・左欄に掲げる症状がある場合に「有」、特にない場合は「無」に「○」を記入してください。
また、体温は0.1℃単位まで記入をしてください。

日付	11月13日	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
のどの痛み	有・無							
咳(せき)が出る	有・無							
痰がからむ	有・無							
鼻水・鼻づまり※	有・無							
頭痛	有・無							
体のだるさ	有・無							
発熱の症状	有・無							
息苦しさ	有・無							
味覚異常(味がない)	有・無							
嗅覚異常(匂いがない)	有・無							

※アレルギー由来のものを除く

私は下記の事項に同意のうえ、第40回記念大分国際車いすマラソンに参加します。

(1) 主催者が、参加者の新型コロナウイルス感染症への感染について責任を負わないこと。

(2) 高齢者及び基礎疾患を有する者の重症化リスクや、若年者や基礎疾患を有しない者の感染の可能性について認識をしていること。

氏名		連絡先		所属名	

大会後チェックシート



新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート(大会後/各自保管用)

本チェックシートは、大会後7日間の体調について各自記録し、何らか症状がある場合は事務局にご報告のご協力をお願いします。
その際、保管いただいている本チェックシートを事務局あてご提供いただく場合があります。
なお、大会後7日間において、特に症状が見られない場合は、記録後に各自廃棄していただいている問題ありません。

大会後7日間(11月21日～11月27日までの間)に新型コロナウイルス感染症(疑いを含む)に関する症状がある場合は、事務局までご連絡ください。(電話:097-533-6006／担当:阿部・山野)

日付	11月21日	11月22日	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
のどの痛み	有・無						
咳(せき)が出る	有・無						
痰がからむ	有・無						
鼻水・鼻づまり※	有・無						
頭痛	有・無						
体のだるさ	有・無						
発熱の症状	有・無						
息苦しさ	有・無						
味覚異常(味がない)	有・無						
嗅覚異常(匂いがない)	有・無						

※アレルギー由来のものを除く

氏名		連絡先		所属名	

参考3:検温等チェック方法

非接触型体温計による検温

選手及び大会関係者の入場時に、非接触型体温計による検温を実施



運用方法

- 選手及び大会関係者は、検温等チェックスペースにおいて検温を実施
 - 体調管理チェックシートを提出し、かつ検温において発熱のない方はそのまま入場、37.5°C以上の方はスタッフよりコロナ対策テントへ移動(開会式においては入場を認めないこととする)し、メディカルスタッフの指示を仰ぐ
- ※ コース沿道及びジェイリーススタジアムにおける一般観客について検温は実施しない

設置場所

【11月19日(土)】 選手受付会場(大分県庁)
開会式及び記者会見会場(お部屋ラボ祝祭の広場)

【11月20日(日)】 スタート地点(城址公園内)
フィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)

新型コロナウイルス感染拡大防止 マニュアル

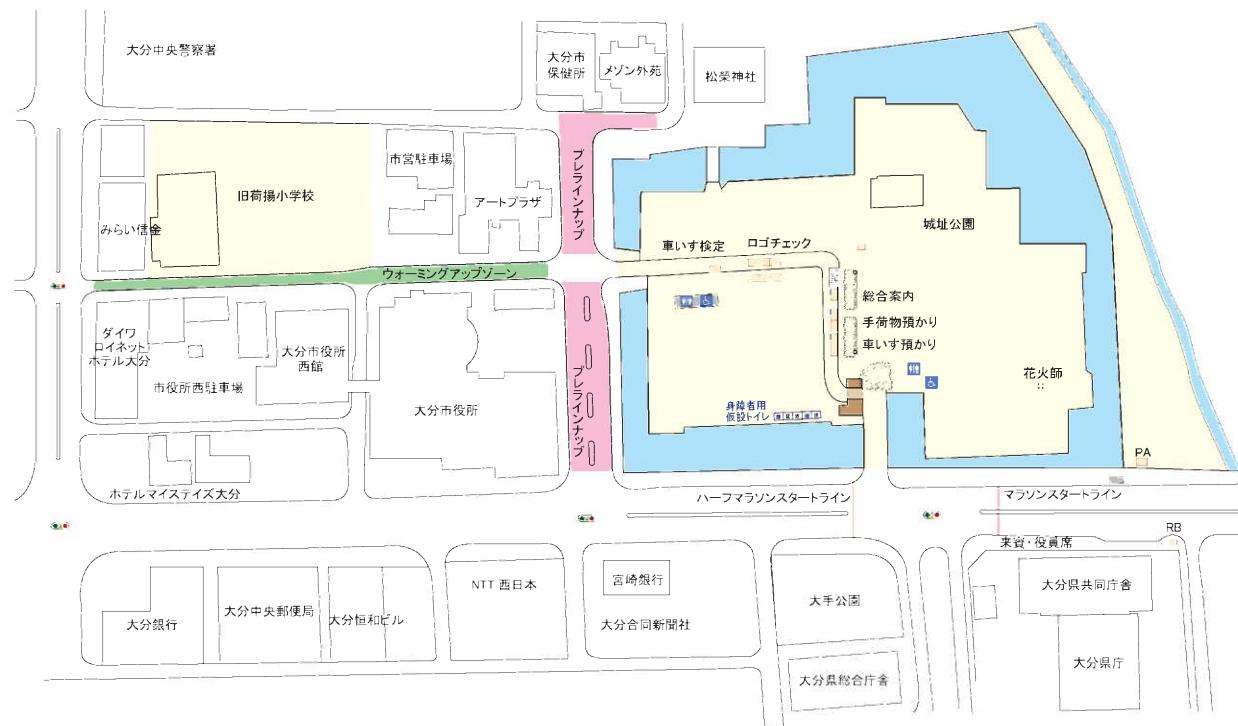
1 感染拡大防止に向けた大会の運営方法

(1) 観戦及び応援の取扱い

本大会では、マスクを着用のうえ、フィジカルディスタンスを確保することで、沿道及びスタート地点(大分県庁前)・フィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)での応援を可能とする。

なお、スタート地点(大分県庁前)・フィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)では、観客にマスク着用及びフィジカルディスタンスの確保に係る注意を呼びかけるスタッフを配置する。

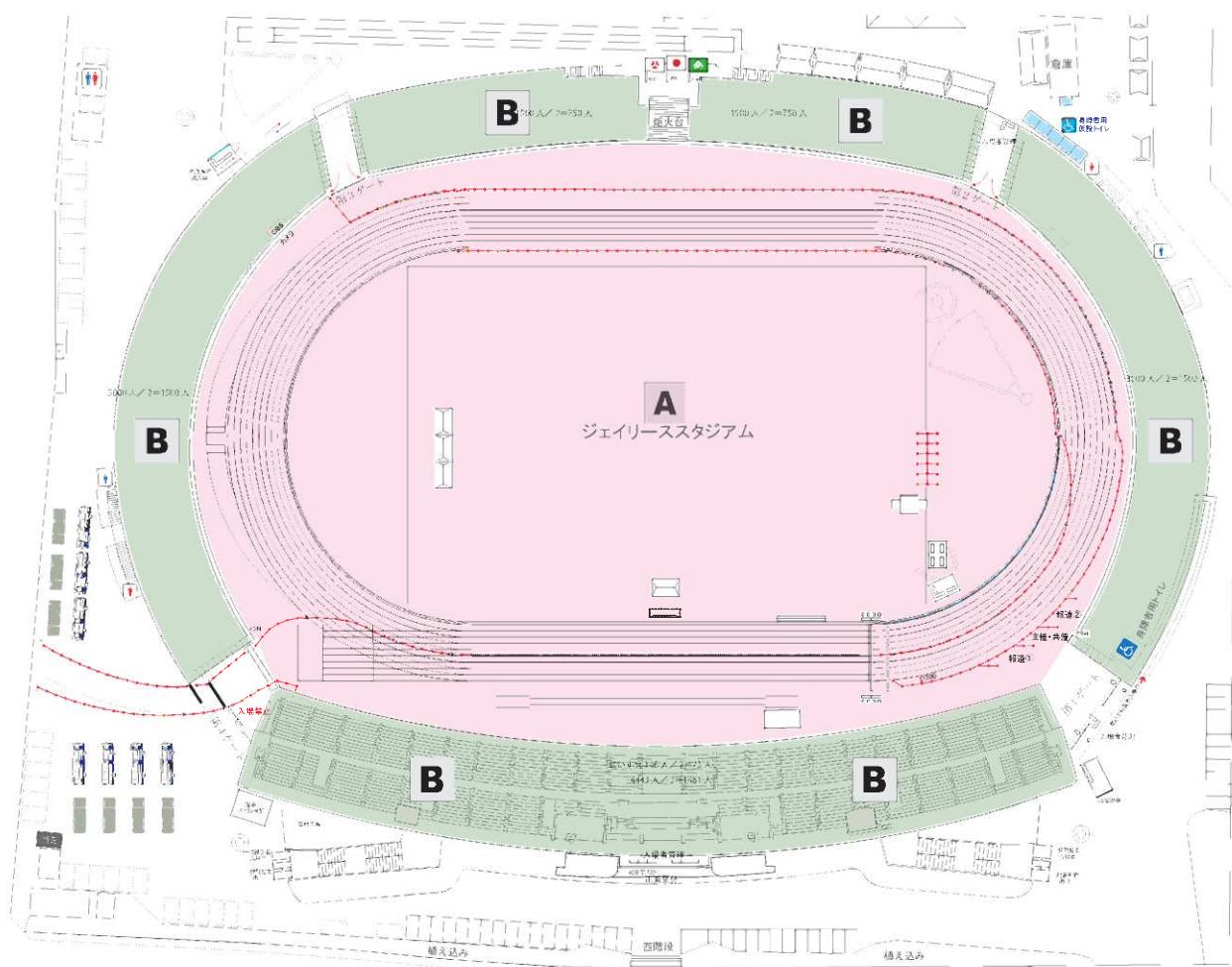
スタート地点



スタート地点の取扱い

- 大会関係者及び観客は、原則マスクを着用し適宜、手指消毒を実施。
- 観客等の立入禁止エリア等は特に設けない。

フィニッシュ地点



フィニッシュ地点の取扱い

- ・ フィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)内では、フィールド(ピッチレベル)及び建物内への立ち入りについては選手や ID カードを所持する大会関係者及び者のみ可能とする。
- ・ スタンドについては、一般観客も来場可能とし、マスクの着用及び適宜手指消毒を行うものとする。なお、スタンド席の利用時は、原則前後左右1席以上空けて利用し、飲食については、黙食にて行うものとする。

(2) 関係者全員の健康状態の管理

- ・ 大会に関わる全ての者(選手、スタッフ、メディア等)は、以下の内容を遵守する。

大会前

- ・ 「感染しない、させない」意識を徹底する
- ・ 大会前7日間の健康・行動管理(ONE TAP SPORTS／体調管理チェックシート)

大会期間中

- ・ 「感染しない、させない」意識を徹底する
- ・ 健康・行動管理(ONE TAP SPORTS／体調管理チェックシート)
- ・ マスクの着用(必要に応じてフェイスシールドの着用)
- ・ フィジカルディスタンスの確保
- ・ こまめな手洗い・手指の消毒
- ・ 咳エチケットの励行
- ・ 屋内では常に換気をする

大会後

- ・ 「感染しない、させない」意識を徹底する
- ・ 大会後7日間の健康・行動管理(ONE TAP SPORTS／体調管理チェックシート)

(3)場面ごとの感染予防策

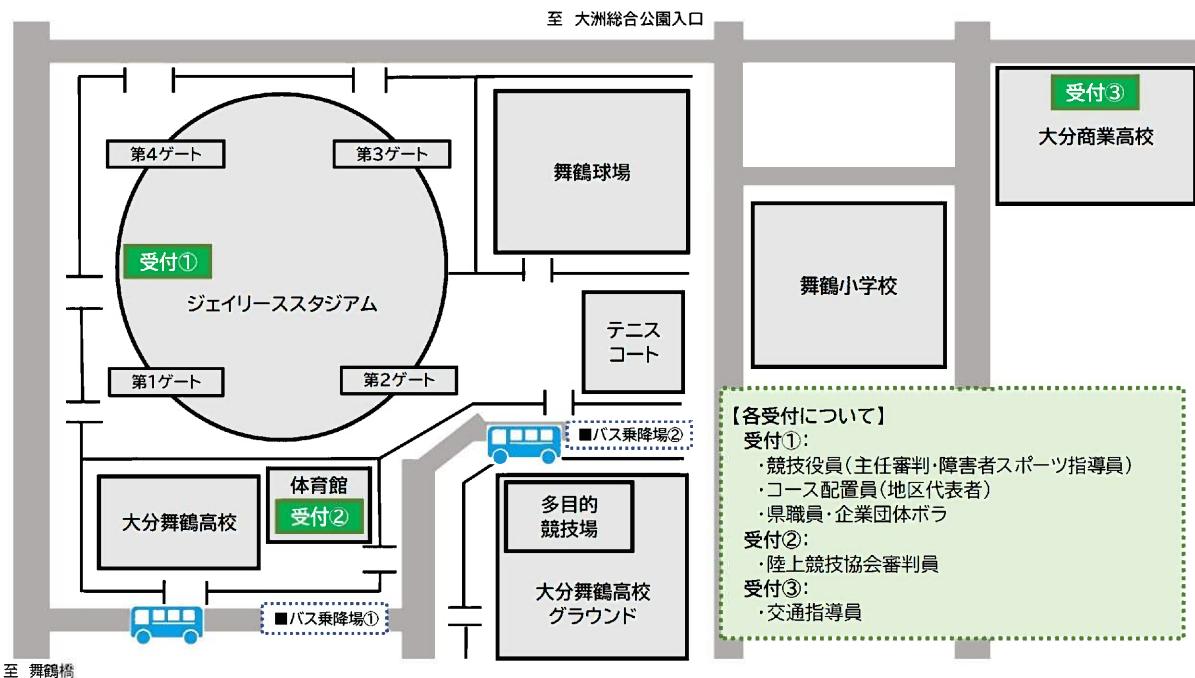
ア 基本的な予防策

- ・「3密」を避け、可能な限りフィジカルディスタンスを確保するよう努める。
- ・全ての大会関係者に対し、常時(選手においては、ウォームアップを含むレース中を除く)マスクの着用を義務づける。
- ・各所に消毒用アルコールを設置し、こまめな手指消毒を呼びかける。
- ・大会関係者全員に大会前7日間及び当日の体調管理チェックシートの提出を義務づけ、感染疑いのある場合は大会への参加を認めない。よって、ボランティア等大会関係者は各業務日に必ず指定された受付にて当該チェックシートを提出する。

【スタート地点の各受付】



【フィニッシュ地点の各受付】



- ・ フィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)については、IDカードを発行した大会関係者のみフィールド内及び建物内への立入を可能とし、それ以外の大会関係者の立入は認めない。
- ・ ボランティアを含むスタッフへの当日説明は最小限とし、人が密集する時間の低減を図る。(事前説明についても、オンラインを活用するなど最大限配慮する)
- ・ 前日の受付会場、スタート地点周辺、競技場において、新型コロナウィルス感染症の感染疑い者を誘導する隔離用設備(テント等)を設置する。併せて、隔離用設備を中心に医師、看護師等の医療スタッフを配置する。
- ・ トイレの使用においては、石けん又は消毒液が常備されているか、ハンドドライヤーが使用中止になっているか等、事前に確認しておく。

イ 新型コロナウイルス検査の実施

本大会では、レース前日の選手受付会場にて、全ての選手について新型コロナウイルス検査(PCR検査)を実施する。



ウ レース前日各会場の入場制限

- 選手受付会場は選手及び関係者のみ入場できるものとする。
- 開会式・記者会見会場は入口で行う検温で問題のない方のみ手指消毒を実施しマスクを着用したうえで入場できるものとする。



	エリア	制限状況	備考
A	選手受付会場	選手及び関係者のみ	
B	開会式・記者会見会場	一般来場可能	入場時検温及び手指消毒

エ 前日受付

- ・ レース前日の選手受付では、選手とスタッフが対面で接する機会が多いため、マスクやフェイスシールドの着用等、飛沫予防等の基本的な対策を徹底するとともに、会場が混雑することのないようレイアウトし、適切な動線を設定するなどの対策を行う。

(主な対策)

- ・ 受付会場に隔離用設備を設置し、医療スタッフを配置する。
- ・ 入口での検温において、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる場合、もしくは体調管理チェックシートにおいて疑い症状が見られる場合は、新型コロナ対応係が隔離用設備へ誘導する。
- ・ 受付や配布物の配布ブースの距離や場所は、選手が滞留しないよう配慮する。
- ・ クラス分けの必要な選手については、ジェイリーススタジアムにて受付を実施のうえ、実走を踏まえたクラス分けを実施する。
- ・ 受付時に、選手は新型コロナウイルス検査(PCR検査)を実施する。

※ 選手については、体調管理は専用アプリ(ONE TAP SPORTS)で行うため、体調管理チェックシートの確認はないが、介助者等エスコートは体調管理チェックシートを提出する。

オ 開会式・記者会見

- ・ レース前日の開会・記者会見は、マスクの着用等、飛沫予防等の基本的な対策を徹底するとともに、来場する県民は入口で検温及び手指消毒のうえ入場できることとする。また会場内が密にならないようフィジカルディスタンスの確保を会場内で呼びかけを行う。

(主な対策)

- ・ 会場出入口を1ヵ所とし、来場者の検温を実施するとともに、手指消毒を行う。
入口での検温において、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる場合は入場できないものとする。
- ・ 会場内の密を避けるため、場内放送及びスタッフの声かけ等によりフィジカルディスタンスの確保を行う。
- ・ 入場者数は、会場の容量(広さから算出)の1/2を超えないよう入口で人数制限を行う。(入場人数上限:300人)

カ ウォームアップ前

- ・ レース当日は、最初に検温を行う(大会スタッフについては体調管理チェックシートの提出も併せて行う)。その後、手荷物等の受付やロゴチェック等を行う際は、選手、スタッフ及び審判員が接近することから、マスクやフェイスシールドの着用等、飛沫予防等の基本的な対策を徹底するとともに、受付会場の混雑防止対策を講じる。

(主な対策)

- ・スタート地点周辺に隔離用設備を設置し、医療スタッフを配置する。
- ・会場での検温の結果、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる場合は、新型コロナ対策係が隔離用設備に誘導する。
- ・会場内で必要以上に混雑しないよう、受付ブースなどの選手及び関係者に対し、フィジカルディスタンスの確保やマスクの着用など呼びかけを行う。
- ・手荷物及び生活用車いす受付ブースのスタッフは、1人分の手荷物及び生活用車いすの受取り及び引渡しを行うごとに、消毒用アルコールを用いた手指消毒を行う。
- ・選手とスタッフが接触する機会が多く、ブースが密状態になりやすいロゴチェックブースにおいて、テント間の距離を2m以上確保する。

キ ウォームアップからラインアップまで

- ・選手同士あるいは選手と介助者の近距離での会話を極力防止するため、ウォームアップ中の会話は控えるよう、注意喚起する。また、プレラインアップ及びラインアップの配列においては、選手同士の距離を確保する。

(主な対策)

- ・ウォームアップエリアに給水ポイントを設置しない。
- ・ウォームアップ整理係は、ウォームアップ中の必要以上の会話は控えるよう、選手に対し呼びかけを行う。また、密を避けるため、ウォームアップエリアへの立入は最低限とするよう、介助者に対しても呼びかける。
- ・プレラインアップ及びラインアップでは、列数を通常大会よりも減らし、選手同士の間隔を前後1.5m以上確保する。
- ・整列位置の目印となる立看板等で代用することにより、選手の整列補助として配置していた審判員及びボランティアの数を減らす。

ク スタートからフィニッシュまで

- ・レース中は、給水時の回し飲みを禁止するなど、感染リスクを減らす対策を講じるとともに、体調不良者に対する介助等、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる選手との接触が想定される場面では、感染防護を徹底した医療スタッフが対応するなど、最大限のリスクマネジメントを行う。

(主な対策)

- ・レース中に選手が捨てた衣類やボトル等は、競技自主整理員がトング等を用いて回収し、原則として全て廃棄する。
- ・給水所にて受け取った水等を他の競技者と回し飲みすることを禁止する。

- コース上を走行する医務車を増車し、レース途中、体調不良によりリタイアした選手に対しては、新型コロナウィルス感染症の可能性を考慮し、感染防護を徹底した医師又は看護師が医務車により対応する。

ケ フィニッシュ後

- フィニッシュ後、選手は原則ジェイリーススタジアム内ではマスクを着用する。更衣や休憩はフィジカルディスタンスを確保して行う。
- ドーピング検査では検査員の検温やフェイスシールド等の着用、検査室の換気等、基本的な感染予防策を徹底する。

(主な対策)

- 隔離用設備を設置し、医療スタッフを配置する。
- フィールド内整理係は、フィニッシュ後の選手に対し、ジェイリーススタジアム内においてマスク着用のうえフィジカルディスタンスの確保を呼びかける。
- 各クラス入賞選手の表彰は、随時大会役員からメダル及び企業賞を手渡すなど、簡易なものとする。その際、選手はマスク(フィニッシュ後に提供)を着用するとともに、大会役員はマスクを着用する。
- 更衣用テントを競技場外に設置し、一度に入場できる人数を最大3名に制限する。また、テント内における会話を控えるよう呼びかける。
- 競技場内に落ちているゴミを回収する際はトングを使用し、ゴミに直接触れないようにし、大会本部等に設置する蓋付きゴミ箱に入れる。

コ 弁当・ゴミの廃棄方法

- 弁当は定められた場所で黙食にて食べ、定められた回収場所にゴミを返却する。
- 弁当殻を除き、ゴミは原則持ち帰るものとするが、万が一ゴミ(鼻水、唾液などが付いた衛生用品(ティッシュ、マスク、タオルなど)等)を廃棄する場合は、大会本部等に設置する蓋付きのゴミ箱へ廃棄する。
- スタッフがゴミの回収を行う際は、必ずマスクと手袋の着用のうえ実施するものとし、回収後マスクや手袋をはずした後は、必ず石けんと流水で手を洗い、アルコールなどで手指消毒を行う。



サ 交流の集い(選手とボランティアの交流会)

- ・ レース終了後に行う交流会(レンブラントホテル大分)においては、事前に参加希望の合った者のみ参加できるものとし、受付にて手指消毒及び検温を実施し、37.5℃未満(37.5℃未満であっても平熱より高い場合はこの限りではない。)の方のみ参加できるものとする。
- ・ 交流の集い時間中は予め事務局の定める配席飲料のみ提供し、料理の提供は行わない。

(4) メディアの感染予防策

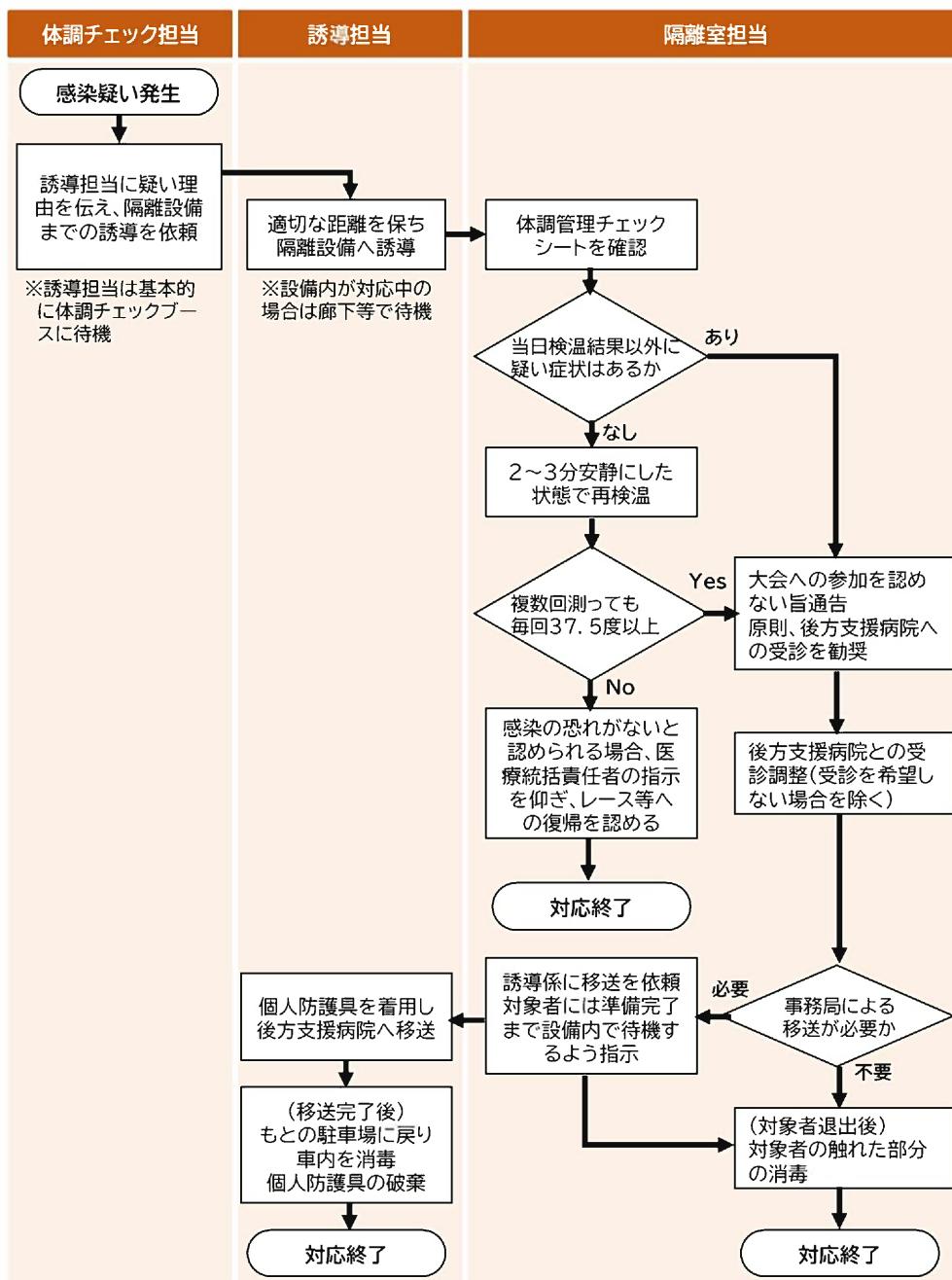
- ・ 取材申込は全て事前申請制とし、報道関係者用の ID カードを事前に発行する。
- ・ レース当日は、スタート地点(城址公園内)とフィニッシュ地点(ジェイリーススタジアム)に報道受付を設置する。受付時に渡されるビブスを着用の上、それぞれの会場において指定されたエリア内で取材を行う。(詳細は、大会事務局の作成する「プレスガイド」を参照すること。)
- ・ 報道関係者に対しても、受付において検温及び体調管理チェックシートの確認を行う。検温の結果、37.5 度以上または平素の体温よりも高いと認められる場合、もしくは体調管理チェックシートにおいて疑い症状が見られる場合は、受付において取材を認めない旨を通告する。
- ・ 個別インタビューは、原則フィニッシュ後の大会事務局が指定する囲み取材のみとする。
- ・ 取材時は常時マスクを着用するものとし、フィジカルディスタンスを意識したうえで取材時間は可能な限り短時間とする。

2 感染者等が発生した場合の対応

(1) 基本的な対応方針

- ・ 体調管理チェックシート及び検温で確認を行い、下記フローに従って対応する。

メディカル対応フロー図



基本事項

本項は、レース前日(11月19日)及び当日(11月20日)等に感染を疑う事例が発生した場合のフロー。原則として、感染を疑う症状がある場合は、選手のみならず、スタッフや関係者を大会に参加させず、関係者との接触をさせない。

発熱や咳・咽頭痛の症状がある場合

- 1 発熱や咳・咽頭痛の症状がある人は、基本的に隔離し、他者との接触を避けるようにする。
※発熱の目安は、37.5℃以上の熱又は37.5℃未満であって平熱以上が明らかな場合とする。
- 2 原則、後方支援病院に連絡し移送する、又は感染疑いのかかりつけ医等への受診を促す。

《対応フロー》

- 1 体調チェック担当は、体調チェックブースにおいて対象者の検温を実施するとともに、その後体調管理チェックシートを受領、その内容を確認(翌日の業務がある場合はシートを返却)
↓
- 2 体調管理チェックシートの余白に検温結果を追記して対象者に返却。
誘導担当が隔離用設備へ誘導し、到着後は隔離用設備担当に引継ぎ。
↓
- 3 隔離用設備にて安静のうえ、非接触型体温計を用いて再度検温して確認。
↓
- 4 再度37.5℃以上の場合、参加させない旨を通告のうえ、受診勧奨。
(後方支援病院への搬送を希望する際は連絡調整のうえ必要に応じて搬送)
↓
- 5 後方支援病院を希望する場合、「受入可否の確認、氏名、生年月日、症状、到着予想、移動手段」を連絡のうえ搬送を実施
↓
- 6 救急車両を使用せず、事務局が用意した車両で移送する場合、隔離室担当からの要請により誘導担当(1名)は、個人防護具を着用し、移送の準備を行い、対象者を移送車両まで誘導する。移送車には、対象者、誘導担当の2名が同乗(各席の窓を全開)。到着後は、対象者を移送車両に乗せたまま病院の窓口に到着した旨を報告し、指示に従う。(終了後は記録の作成及び車両の消毒等を実施)

- 《その他注意事項》
- ・ 選手に疑いが出た場合、隔離・搬送には介助者が同行する場合もある。
 - ・ 隔離用設備はレース前日受付会場、スタート地点、フィニッシュ地点に設置する。

(2) 感染疑い者が発生した場合の行動(各場面)

ア 前日受付会場で発生した場合

- ・前日受付会場での検温において、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる者がいた場合や、疑い症状をはじめとする体調不良を申し出る者がいた場合、速やかに隔離用設備へ誘導する。
- ・新型コロナ対応係は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、感染疑い者のかかりつけ医又は後方支援病院へ連絡し受診調整を行い、事務局が用意した車両で対象者を後方支援病院へ移送する。
- ・対象者の退出後、新型コロナ対応係は隔離用設備の消毒を行う。

イ スタート地点付近で発生した場合

- ・当日の検温において、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる者がいた場合や、疑い症状をはじめとする体調不良(明らかに該当しない外傷等を除く。以下同じ。)を申し出る者がいた場合、新型コロナ対応係は、速やかに隔離用設備へ誘導する。(体調チェックブースにおける検温の結果の結果、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められた者については、隔離用設備において再度検温を行う。以下同じ。)
- ・スタート地点周辺道路の交通規制が行われていない場合、新型コロナ対応係は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、大会事務局の定める後方支援病院へ連絡し、受診調整を行う。その後、事務局が用意した車両により、対象者を後方支援病院へ移送する。なお、スタート地点周辺道路の交通規制が行われている場合、新型コロナ対応係は交通規制が解除されるまでの間、隔離用設備で待機するよう対象者に指示した上で受診調整を行う。交通規制解除後は、速やかに対象者の移送を行う。
- ・隔離用設備にて診察(問診)の結果、新型コロナウイルス感染症の感染のおそれがないと認められる場合は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、レースに向けた準備(選手)や業務への復帰(スタッフ)等認める。
- ・対象者の退出後、新型コロナ対応係は隔離用設備内の消毒を行う。

ウ 競技場内で発生した場合

- ・当日の検温において、37.5度以上又は平素の体温よりも高いと認められる者がいた場合や、疑い症状をはじめとする体調不良を申し出る者がいた場合、新型コロナウイルス対応係は、速やかに隔離用設備へ誘導する。
- ・医師による診察(問診)の結果、より詳細な検査や治療の必要等があると認められる場合、新型コロナ対応係は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、後方支援病院へ連絡し受診調整を行う。
- ・診察(問診)の結果、新型コロナウイルス感染症の感染のおそれがないと認められる場合は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、業務への復帰等を認める。

- ・ 対象者の退出後、新型コロナ対応係は隔離用設備の消毒を行う。
- ・ 対象者が自力で後方支援病院を受診することが困難な場合、後方支援病院へ移送する。(車両への誘導・乗降時の介助・医療機関までの運転は新型コロナ対応係が行う。)なお、車両を使用した場合は、新型コロナ対応係が車内を消毒し、次の対応に備える。

エ コース途中で発生した場合

- ・ 体調不良による選手のリタイア等が生じた場合や、疑い症状をはじめとする体調不良を申し出る者がいた場合、各エリアの配置責任者は、大会本部に連絡し、現況を報告する。
- ・ 大会本部は、コースを走行する医務車に対し、現場への急行を指示する。(対象者が選手である場合は、併せて緊急対応車に対しても現場への急行を指示する。)
- ・ 医務車到着後、医務車に収容しジェイリーススタジアムに搬送する。(対象者が選手である場合、競技用車いすは消毒の上、緊急対応車が収容する。)なお、対象者が重症である場合は、医療統括責任者の指示を仰ぎ、後方支援病院に直接搬送する事も検討する。
- ・ ジェイリーススタジアムに搬送した後の手順は、ウに同じ。なお、使用した医務車は、乗員が適切な方法で消毒し、次の使用に備える。

(3) 感染者を確認した場合の対応

ア 選手が新型コロナウイルス検査(PCR検査)による検査において陽性となった場合

- ・ 検査実施機関から陽性者を確認した旨の報告を受けた場合、大会事務局は当該陽性者の氏名等、検査結果の詳細を検査実施機関に確認する。
- ・ 大会事務局は、前項で確認した情報を、医療統括責任者と情報共有のうえ、速やかに後方支援病院を通じて、大分県福祉保健部感染症対策課及び管轄保健所と共有する。
- ・ 後方支援病院の医師は、当該陽性者に連絡し、検査結果が陽性であった旨を伝えるとともに、感染症法に基づく届出を管轄保健所に提出する。
- ・ 大会事務局(医療統括責任者)は当該陽性者に連絡し、「検査結果が陽性であるため、大会への参加を認めない。」旨を通告するとともに、直前数日間の行動について聴取する。
- ・ 直前数日間の行動について聴取した結果、大会に参加予定の他の選手・介助者等の中に接触者がいた場合、大会事務局は当該者に連絡し、事実確認を行う。(陽性者との接触に伴い感染が疑われる事務局が判断した場合は、大会への参加を認めない事を通告する。)

※ 感染症法に基づく積極的疫学調査(濃厚接触者の有無の確認)は、管轄保健所が行う。

その他管轄保健所の指示に大会事務局も従うものとする。

イ 大会終了後7日以内に感染の報告を受けた場合

- ・ 大会事務局は、大会終了後7日以内に、医療機関又は大会関係者から新型コロナウイルス感染症の感染の報告を受けた場合、管轄保健所等関係部署に情報提供を行い、感染者が発生した旨の情報発信を行う必要性について協議する。
- ・ 協議結果を踏まえ、感染の事実を不特定多数の人に知らせる必要があると大会事務局が判断した場合、大会ホームページやプレス発表等による周知を行う。また、選手及びスタッフ等に対しては、あらかじめ作成したメーリングリストを用いて、メールにより情報提供を行う。なお、公表する場合は、その内容を含めて一般社団法人日本パラ陸上競技連盟及び一般社団法人日本陸上競技連盟に事前に報告する。



大分国際車いすマラソン

OITA International Wheelchair Marathon

<作成> 大分県
大分国際車いすマラソン実行委員会
新型コロナウイルス感染症対策委員会

<協力> 公益財団法人 日本障害者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会
一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟